

令和4年度 第2回自立支援協議会定例会議(書面開催) 議事録

開催日:令和5年2月2日(木)

委員:出席29名、欠席0名

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、書面開催といたしました。

議事1 第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の初年度にあたる令和3年度の報告について

(1) 内容

第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の初年度にあたる令和3年度の報告についてを行いました。

(2) 委員からの意見

- ◇ 直前で書面開催になったのは残念ですが、議題1の「第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画」の令和3年度の報告で、見込み数と実績の記載がありました。見込数を下回っているものもありますが、上回るものが多くありました。これはそれぞれの方々の努力だと思えます。
その中で例えば就労出来た方が引き続いて働いている者なのか、何らかの事情で辞められた方がいると思うので、その動きの数が解るとよいと思えます。
- ◇ 第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の基本指針において、前期計画の5つの計画から、さらに「相談支援体制の充実」、「障がい福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築」の2点が追加され、それぞれ目標値等の実現に取り組んでもらえるので一歩前進しました。
- ◇ 重心障がい児の支援に関する4つの事業の成果目標を達成するように取り組んでください。成果目標を設定することは大事なことです。数字ばかりの傾向にならない策定であってほしいです。
- ◇ 居住支援協議会が設置され情報共有や連携を図る支援策は住み慣れた地域で安心して暮らせる重要だと思えます。
- ◇ 発達障がい者(児)等身のピアサポート活動の推進が検討中のようですが、ピアな関係でサポートする人材育成が大事だと思えます。
- ◇ 重症心身障害児者等留守番看護師派遣制度は、対象が狭いと思っていたので対象を拡大されていることは障がい当事者や家族にとって何よりも安心して暮らせるツールのひとつと思えます。また、関係各課のデータ把握の共有は以前からの課題でもあるので急務で取り組んでほしいです。
- ◇ 障害者福祉計画には荒川区自立支援協議会委員の意見が多く反映されていることに感謝しています。また、書面開催でも発言内容に丁寧な説明がされてい

て、そのような担当者があることを誇らしく思います。

- ◇ 2019年に発生したコロナウイルス感染と防止の中で、目標設定及び達成が平常時とくらべ困難な状況にもかかわらず、支援体制の整備と推進をされ、今後の取組に賛同します。
- ◇ 精神障害にも対応した地域包括システムの構築が重要です。そのために、障がい児支援の提供体制として4点の成果目標をいかに具体化され、1人1人の思いが地域で叶えられる支援体制の構築と、地域のニーズの把握が鍵となるでしょう。
- ◇ 基幹相談センターを中核した連携、ネットワークの構築が開始された由、今後の活動に期待が持てます。またセンターの充実を目指し、研修により専門知識を習得された区職員の皆様の活躍の場を確保することが、今後の活力となっていくことでしょう。
- ◇ 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、新たな就労形態であるオンラインの活用も日常化してきました。保健、医療、障害福祉、保育、教育等のすべてが協働し、障害児の支援が成人期に至るまで円滑に引き継がれていくことが重要です。そのことが地域包括ケアシステムの障がい者バージョンを成功に導くために、重要なことと思います。
- ◇ コロナ禍のような状況の中で、障害福祉サービスとしてニーズが増加するものと、低下するものがあつたと思います。ここ数年の見込みと実績を分析するだけでなく、ニーズ変化の傾向とその理由も精査できるとよいのではないかと思います。また、既存のサービスの形を柔軟に変化させることで孤立防止につながるアイデアもあつたのではないのでしょうか。利用者側からの視点も加えて共有する機会があるとよいと思いました。
- ◇ 障害福祉サービス等を向上させるための取り組みで、区の職員の方々が、障害福祉サービス等に係る研修を受講されていることを嬉しく思います。ぜひ引き続き実施していただき、利用者に必要とされる支援を一緒に考えていただければ幸いです。実施されているようでしたら申し訳ありませんが、福祉の現場での研修も実施され、現場の声を聴いて感じて、これからの区の施策に取り入れていただければ嬉しいです。
- ◇ 第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の令和3年度報告では、目標値を達成している項目が多くあり、概ね計画目標を達成していると捉えられます。しかしながら、目標値に達成していない項目については、課題を整理し、令和5年度の目標値達成に取り組んでほしいです。
- ◇ 就労について、今後短時間労働の雇用率算定や就労と福祉がより密になってきます。(障害者雇用促進法の改訂に伴い)そのため、各分野の機関の皆様と情報の共有が行えてくると良いと考えます。
- ◇ 就労されている方が、高齢のためB型事業所へ、逆にB型事業所から就労されたり、年齢やスキルの変化等で生活スタイルも変化する事例が増加しています。生活介護、B型事業所、A型事業所、就労移行、就労と一つの事業所にと

どまらず、その方々の体や生活の変化に伴い、利用する事業所も変えていく動きをより活発にしていくことが、今後必要と考えます。

- ◇ 第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画を改めて内容確認、令和5年度は取り組む必要があると感じました。
- ◇ 令和4年度に医療的ケア児等地域コーディネーターの設置となったこと、そして荒川たんぽぽセンターの機能を強化し児童発達支援センターへと位置付けることとなったこと、よかったですと思います。こども家庭総合センター等との連携のもと、医療的ケア児の療育や保護者を含めた支援の充実に期待いたします。
- ◇ 居住支援、施設系について「重度障がい者の受入れが可能なグループホームも含め設置を促進する」とあります。指定管理施設（生活介護）においても、ご家族の高齢化や入院、入所等に伴ってご利用者が遠方施設への入所を余儀なくされる事例が増えてきており、住み慣れた街で引き続き生活を送っていただく上で、医療的ケアの必要な方や強度行動障がいの方も入居できる共同生活援助等の事業所が区内及び近隣自治体で拡充されていく必要性を日々実感しております。資料には見込量、実績ともに増加しており、別途お調べいただいた区内及び23区内での共同生活援助利用者の推移につきましても、過去5年間、区内では2～3名ずつ、23区内でも概ね増加が見られております。しかしながら、重度障がいの方々の住まいの問題は依然として大きな課題となっておりますので、区内における拡充や近隣自治体の事業所との連携に向けた方策について、引き続きご検討をお願いいたします。

議事2 各部会の進捗状況の報告について

(1) 内容

各部会の進捗状況について報告を行いました。

(2) 委員からの意見

- ◇ 其々の部会活動の報告は、スタッフの方々が工夫を凝らし、精力的取り組まれているのに頭が下がる思いです。
- ◇ 精神ワーキンググループの報告について、令和3年度の区民入院16名中12名が退院希望（75%）した調査は、もし家族の協力及び主治医、区のサポートが充実していたならば、地域移行はすみやかに実施されたと思われました。長期入院の予防を継続支援するため、具体的な仕組みづくり等を推進してほしいです。
- ◇ 部会の活動等進めてくださりありがとうございます。障がいのある人の地域移行を進めつつも、地域で暮らしている知的障がい者が、地域に住み続けることができず、多数入所施設等（地方の）に入所する事態が続いています。荒川での知的中・重度の方のグループホーム等の確保は地域課題として進めていく所と切に思います。又、ショートステイ、ヘルパー等の社会資源もその少なさゆえにある意味取り合いとなっている状況も地域課題として、基幹相談支援セン

ターや自立支援協議会等で取り組んでいく所と存じます。

- ◇ 様々な障がいのある人が地域に根づき、共に生活するのは、本人にとっても周囲にとっても、非常に大変であるということについて、各事例を読んで感じました。
- ◇ 重層的支援体制整備事業は先進事例のように上手く形作ることができれば、非常に理想的な地域支援体制になると感じました。各機関の窓口のハブ的な役割が体制としてあることは、当該者にとって非常に心強いと思います。また、こういった体制は防災の面にも応用できるのではないかと思います。
- ◇ 研修ワーキンググループの活動もコロナ禍により、当初制限されておりましたが、オンラインの活用も適切に行うことによって、各部会とも着実に成果を上げてられました。今後の皆様方の更なるご活躍を大いに期待しております。
- ◇ 各部会とも工夫しながら活動を継続していて頼もしいです。
- ◇ 各部会とも大変な課題に向き合いながらも、定期的開催されて、一つ一つ丁寧に議論されていることがわかります。ありがとうございます。
- ◇ 児童発達支援センターへの充実及び保育所等訪問支援の機能追加について、より詳細な検討を進めていくと思いますが、そのためにもワーキングを再編し、相談支援部会の研修 WG を児童発達支援ワーキングとしていく必要があると思います。研修 WG の機能は基幹相談支援センター付与し、重層的支援体制整備について各機関（主は福祉推進課だと思いますが）と日常的に協議を行い、児童発達支援 WG では、障害児相談支援のあり方と保育所等訪問支援のあり方やモデル実施を推進していく必要があると思います。
- ◇ 各部会の進捗状況については、Zoom でのオンライン形式当を利用してワーキンググループを主催するなど、コロナ禍で工夫して実施しており、各部会が積極的に取り組む姿勢が見えます。また、ワーキンググループでは、様々な支援組織との連携を図りながら、意見交換や先進事例の研究を行っているなど、今後の取組みの方向性が見えてきています。今後も、ワーキンググループが示した方向性を具現化し、様々な支援組織との縦及び横の連携を強化し、事業に取り組むことにより目標の達成が期待できます。
- ◇ 各部会、精力的な活動ありがとうございます。活動報告についても、とても見やすく、各部会の特徴が出ていて参考になりました。
- ◇ 地域移行について、移行する側への取り組みはもちろん重要ですが、移行する地域への取り組みの平行して行わなければならないと思います。地域への理解や協力がなければ、長く地域での生活が続かないのではと思います。受け入れ先の地域の理解を求める取り組みがこの協議会で議論出来ればと思います。
- ◇ 各ワーキンググループの活動は時間がないなかでも官民協働でチームを組んで課題解決に向けて研修や他自治体の見学など行うなど、良い活動をしていると思いました。
- ◇ 重層的支援会議については、今後の大きな流れになっていくものと思われます。実施された「模擬・重層的支援会議」の研修での知見を活かして、施設も含め

たよりいっそうの連携強化を、宜しくお願いいたします。

- ◇ 「自主生産の在り方」について認識を深める機会を設けたこと、目指すものが「工賃」なのか「障害者理解」なのかという議論がなされたことは、とても大切なことと思います。「販売する」ことを伴わなくても生産的な活動を行い、それによりいきがいや充実感の獲得、社会参加や交流の機会の確保をしていくことは可能であると考えております。引き続き、議論を進めていただければと思います。
- ◇ 作業所間での委託販売のルール作り等、具体的な連携を進め、販売の機会を逸するリスクを減らすことができたことは、とてもよいと思いました。コロナ禍で中止となっていたイベントの再開や新たな出店の機会を、ぜひ積極的に活用していただければと思います。
- ◇ 医療的ケア児については、対象児への切れ目ない支援を目的とした関係機関における情報共有が非常に重要であると感じます。令和3年2月に設置された医療的ケア児等支援協議会において、個々の状況も含めた情報共有を行う仕組み作りが必要と考えます。

その他

(1) 委員からの意見

- ◇ 自立支援の観点から「生活の質の向上・・・」という文言がありますが、民間支援事業所では、「QOL」の対応をする事業所は皆無に等しい状況があります。
- ◇ コロナの影響でなかなか他の事業所での活動がわかりにくい中で、このように活動報告を知る機会がありがたいです。今後はさらにオンライン化やシステム化が進んでいくと思うので、そちらのサポート情報なども教えて頂けたらありがたいです。
- ◇ ニーズ調査も含め、地域移行に向けた取り組み等、丁寧に進められている様子がわかりました。引き続き、ご利用者本人に寄り添った支援を期待いたします。
- ◇ 今後とも、各方面において、区と学校、地域で連携をとり、進めていければと思っております。

以 上